

実施記載例（フォークリフト作業）

対象職場 ＊1 (鑄物製造工程等を記入)	1, 2, 3の実施担当者の実施日 ○○○○	4, 5, 6の実施担当者の実施日 △△△△	7, 8の実施担当者の実施日 ◇◇◇◇
運搬工程	H19年○月1日	H19年△月1日	H19年◇月1日

社長	安全衛生 委員長	製造部長	課長
印	印	印	印

1. 作業名 (機械・設備)	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」+ 「～になる」と記述します) ＊2	3. 既存の災害防止 対策	4. リスクの見積り ＊3			5. リスク低減措置案	6. 措置案想定リスク の見積り			7. 対応措置		8. 備考 (残留リスクについて)
			重 篤 度	可 能 性	頻 度		重 篤 度	可 能 性	頻 度	対策 実施日	次年度 検討事項	
フォークリフト 運搬作業	①フォークリフトを旋回させるとき、急ハンドルを切ったのでフォークリフトが横転し、シートベルトをしていなかった作業者が投げ出される。	作業前の手順書の確認をしている。	10	2	2	・シートベルト未装着 ・警告ブザーが装備された機種に変更する。 ・前進を原則とした運 行経路に変更する。	6	1	1	H19 Y/18	機種変更のための予 算を計上する。	
同上	②フォークリフトをバックで運転中、急激に後退したため、後方の積荷に激突して作業者が投げ出される。	作業前の手順書の確認をしている。	10	2	2	・再教育をする。 ・作業手順書を見直し、 改定する。	10	1	1	H19 X/25	運転手の定期的な社 内技能講習を行う。	
同上	③フォークリフトをバックで運転中、後方確認が不 充分であったため、後方の作業者に激突する。	大きいバックミラー に変更している。	10	4	2	・作業通路と安全通路 に柵を設置する。	3	2	1	H19 X/1		
同上	④搬出中の積荷の位置が高く、リフト前方が見えにくいため、出口へ前進したときに台車で荷物を運搬中の作業者に激突する。	マストの高さを制限 (2m) している	10	2	2	・フォークリフトのマ ストの高さを制限 (1.5m) する。 ・フォークリフト走行 通路に柵を設置する。	6	1	1	H19 Y/1	出口にカーブミラー の設置を検討する。	
同上	⑤フォークリフトを運転中、急ブレーキを踏んだため、搬出中の積荷が傾いて製品が落ちてきて、運搬者に飛来する。	作業前の手順書の確認 をしている。	6	2	2	・再教育をする。	6	1	1	H19 Y/20	運転手の定期的な社 内技能講習を行う。	
同上	⑥フォークリフトを運転中、積荷の昇降に気を取られていたため、後方の作業者に気付くのが遅れて 激突する。	作業前の手順書の確認 をしている。	10	4	2	・フォークリフト専用作業 帯に柵を設置する。 ・積載量の見直しをする。	6	2	1	H19 Z/1		
同上	⑦フォークリフトをバックで旋回させたととき、急ハ ンドルを切ったので、搬出中の積荷が右に傾いて 製品が飛び出し、台車で荷物を運搬中の作業者に 飛来する。	作業前の手順書の確認 をしている。	6	2	2	・再教育をする。	6	1	1	H19 X/22	運転手の定期的な社 内技能講習を行う。	

＊1：この一覧表は、職場の工程ごとに作成します。各工程の全ての作業（作業手順）を取り上げ危険性又は有害性の特定から進めます。

＊2：災害の過程をわかりやすく表現します。たとえば、危険性又は有害性「～なので、～して」+「～になる」のように記述します。

＊3：重篤度、可能性、および頻度は、それぞれ発生のおそれのある労働災害の重篤度、発生の可能性、および危険性又は有害性に近づく頻度をいいます。リスク欄ではリスクの点数（リスクポイント）を（ ）内に記入します